

研究・調査報告書

報告書番号	担当
90	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Patterns of alcohol drinking and its association with obesity: data from the Third National Health and Nutrition Examination Survey, 1988-1994. 飲酒パターンと肥満との関係：1988-1994年の第三回国民健康・栄養調査からのデータ	
執筆者	
Arif AA, Rohrer JE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMC Public Health. 2005 Dec 5;5:126.	
キーワード	
飲酒、肥満、疫学	
要旨	
<p>第三回国民健康・栄養調査に参加した8236人のアメリカ成人（非喫煙者）で飲酒と肥満の関係を調べた。ボディーマス指数（BMI; 体重 kg/身長 m²）は身長と体重より算出し、正常、過体重、肥満の3つに分類して肥満度の評価を行った。また、アルコール消費については飲酒歴、飲み過ぎ、1日当りの飲酒量、飲酒頻度、1週間当りの飲酒容量によって評価を行った。非喫煙者のBMI平均は26.4であった。回答者の約46%が現飲酒者であった。現飲酒者は非飲酒者に比べて、肥満が少なく、オッズ比は0.73であった（非飲酒者の肥満を1とする）。1日当り4杯以上の飲酒をする者を飲み過ぎとした場合、飲み過ぎの人では過体重、肥満が顕著に多かった。しかしながら、1日当り1杯または2杯の飲酒では肥満に対するオッズ比がそれぞれ0.46と0.59であり（非飲酒者の肥満を1とする）、非飲酒者よりも肥満が少ないことがわかった。飲酒機会が頻繁な者、1週間当りに5杯以下の飲酒をするもので同様に肥満に対するオッズ比が低いことが明らかになった。過体重と飲酒については顕著な特徴は見られなかった。体重管理においては適量飲酒に何らかの役割があることが示唆された。</p>	